

日本臨床外科学会 国内外科研修報告

藤田保健衛生大学総合消化器外科での国内研修を終えて

新潟大学大学院医歯学総合研究科消化器・一般外科学分野（第一外科）

田島 陽介

この度、日本臨床外科学会国内外科研修制度を利用させていただき、2017年9月3日より9月9日までの7日間藤田保健衛生大学総合消化器外科で研修させていただきました。ここに感謝の意を込めて、謹んでご報告申し上げます。

私が研修先として藤田保健衛生大学総合消化器外科、とくに下部消化管グループを希望させていただいた理由は次の2つです。1つ目は、現教授花井恒一先生を中心とした同グループが日本における直腸癌に対するロボット支援下手術のパイオニアであったこと、さらには現在もなおリーダーの一角を担っていることが挙げられます。2つ目は、直腸肛門の機能性疾患の大家である前田耕太郎先生がいらっしゃる施設であることが挙げられます。いずれの分野においても新潟県内での取り組みは遅れていると感じており、この機会にぜひ勉強させていただきたくこの国内研修に応募させていただいた次第です。

7日間という短い研修期間であったため、残念ながら直腸癌に対するロボット支援下手術を見学することはできませんでしたが、ロボット支援下肝切除術を見学することができました。従来の腹腔鏡手術ではアプローチできない角度から剥離・切離を行うことが出来る多関節機能、安定したカメラワークと鉗子操作が行える手ぶれ補正機能が遺憾なく発揮されており、非常に感動しました。これらの機能が狭い骨盤内での緻密な操作を要する直腸癌手術においても真価を発揮するだろうことは容易に連想でき、ロボット支援下手術に大きな可能性を感じました。また、セッティングやサポートを行う助手と執刀医との連携がとてもスムーズであり、安定した手術成績を残すには術者のみならずチーム全体の習熟が必須であることも実感しました。

日本では2009年に手術支援ロボットシステムが初めて薬事承認されましたが、藤田保健衛生大学では同時期より他施設に先駆けてロボット支援下直腸癌手術を導入しています。前立腺手術および腎部分切除術におけるロボット支援下手術が保険収載されている一方、ロボット支援下直腸癌手術に関しては現在のところ自費診療という状況の中で、ロボット支援下直腸癌手術の導入および継続に関する問題点、またこれからの展望について、花井先生より非常に丁寧かつ詳細に教えていただきました。今後エビデンスがさらに蓄積することでロボット支援下直腸癌手術が標準手術となる可能性があり、その時にロボット支援下直腸癌手術を治療選択肢の一つとして自信と実績を持って患者さんに提示できるように、今から十分に準備していく必要があるのではないかと感じました。

直腸肛門機能性疾患に関しては、出産に伴う会陰裂傷後の便失禁に対する Anterior levatorplasty を見学することができました。助手に入られた前田先生が非常にわかりやすく解説してくださり、手術書では記載されていなかった点までよく理解することができました。なによりも手術の流れによどみがなく、視野展開が美しく、外肛門括約筋や肛門挙筋をはじめとした局所解剖が明瞭に描出され、非常に安心感・安定感のある手術だと感じました。藤田保健衛生大学では他にも直腸脱に対する腹腔鏡下 Wells 手術や便失禁に対する仙骨神経刺激療法などが積極的に行われており、大腸癌治療のみならず直腸肛門機能性疾患においても経験豊富であることが実感できました。新潟県内ではとくに直腸肛門機能性疾患を専門とする外科医が少ないため、われわれの施設を含めて同疾患の専門医の養成が急務であると感じました。

腹腔鏡手術の教育法として印象的であったのがビデオカンファレンスでした。毎週火曜の朝8時より

行われ、翌週の全ての腹腔鏡手術に関して術者が5分程度に手術ビデオを編集してプレゼンテーションを行っています。上級医、ときには後輩からも鋭い指摘を受ける厳しいカンファレンスでしたが、手術技術の向上に非常に有効であると感じました。また、ビデオ編集のためには術者自身が幾度もビデオを見直す必要があり、結果として自分自身で改善点を見出す効果もあるのではないかと感じました。今後当科でも同様のビデオカンファレンスを導入し、手術手技の一層のレベルアップを図っていきたいと考えています。

当初、藤田保健衛生大学が有する寮に宿泊させていただく予定でしたが、たまたま寮が改修中の時期での研修となりました。そのため、花井先生のご厚意によりご自宅に宿泊させていただきました。結果として、外科医療に関する様々なお話をお訊きする十分な時間をいただき、さらに、外科医にとってご家族の理解とサポートがいかに重要であるかを実感することができました。愛知県の名所・名産もご紹介していただき、私にとって未知であった愛知県が少し身近な地となりました。教室員の方々もお忙しい中大変親切に対応していただき、この研修が忘れられない楽しく充実した経験となりました。今回のご縁を大切に、今後も交流を続けさせていただきたいと考えています。

以上、藤田保健衛生大学総合消化器外科での国内研修についてご報告いたしました。前田先生、花井先生をはじめ、お世話になった藤田保健衛生大学の方々には御礼申し上げます。また、今回この貴重な機会を与えていただいた日本臨床外科学会国内外研修委員会の皆様、ご推薦いただいた新潟大学消化器・一般外科若井俊文教授、ご支援いただいた当科教室員の皆様にこの場を借りて深謝いたします。



9月4日第36回愛知大腸肛門疾患懇話会にて；向かって左より、藤田保健衛生大学病理診断科教授黒田誠先生、同下部消化管外科教授花井恒一先生、同上部消化管外科教授宇山一朗先生、帝京大学ちば総合医療センター外科学講座教授幸田圭史先生、筆者、藤田保健衛生大学国際医療センター長・教授前田耕太郎先生